



食べ過ぎ飲み過ぎ仕事し過ぎ、気が付くと血管劣化に！

腸は、人体最大の免疫器官です。免疫とは一言でいうと、病気を防ぎ、治し、老化を防ぐシステムのこと。免疫の約7割を腸が築いています。その免疫力に多大な影響を与えているのが、腸にすむ約200種100兆個もの腸内細菌です。

外見の若々しさは、血管の若さでもあります。血管年齢は、外見にそのまま映し出されるものです。なぜなら、全身に張り巡らされた血管が、人体の健康増進と老化防止に必要な栄養素と酸素を運ぶからです。血管が老化しては、血液の流れがとどこおり、それに伴って外見もどんどん老け込んでいくことになるのです。

腸の劣化が動脈硬化・高血圧を引き起こす

最近の研究によって、腸にあいた目に見えないほどの細かな穴が、血管の劣化を引き起こしていることがわかってきています。それによって腸壁から不要物が漏れ出して血液が汚れ、血管に悪影響を与えているのです。

このことが、高血圧や動脈硬化を引き起こし、体調の悪化や外見の劣化を生じさせます。このように、腸にあいた細かな穴がさまざまな健康害を引き起こすことを「リーキガット症候群」と言います。「リークする」という英語は、情報を漏らすというような場合によく使われますが、この場合の症状は「ガット」すなわち「腸」から液体がもれるという意味で、すなわち「腸モレ」のことです。腸は免疫防御の大事な臓器ですが、この防波堤が崩れてしまうのです。一番問題なのは、腸の不調が血管に障害を与えること。血液が汚れて血流が滞る隠れた犯人なのです。血管の問題はコレステロールが原因とよく言いますが、この腸モレが大きく影響しているのです。その証拠に、最近の血管の研究によって、血管内に腸内細菌が見つかったという事実が発表されたのです。動脈硬化から脳梗塞や心筋梗塞などにならないためには、健康な【腸健康人】になって血管を若返らせることが何より大事です。血液をきれいにし、血管を若返らせるためには、リーキガット症候群を改善することが第一です。これまで減塩したり、肉を食べる量を減らしたりしても、高血圧改善の決め手にならなかったという人が多いでしょう。それは、腸が劣化しているからと考えられます。腸が劣化した状態では、何をしても状況を改善できません。腸壁から漏れ出した不要物が血管を劣化させ続けるからです。つまり、血管の若返りは、腸から始めるべきなのです。

医学博士 藤田紘一郎先生

大和酵素の善玉シリーズ！



ロングカム種ビフィズス菌100億個
ラクトフェリン150mg



ロングカム種ビフィズス菌200億個
ラクトフェリン150mg
有孢子性乳酸菌（ラクリス菌）2億個
F K-23乳酸菌 1000億個
L F K（F K-23菌体抽出物）10mg



ロングカム種ビフィズス菌200億個
ラクトフェリン150mg
F K-23乳酸菌 6000億個
L F K（F K-23菌体抽出物）50mg



ロングカム種ビフィズス菌70億個
食物繊維
乳果オリゴ糖



ロングカム種ビフィズス菌70億個
サイリウム（食物繊維）
乳果オリゴ糖



麹菌（アスペルギルスオリゼー）
酵母（サッカロマイセスセレビシエ）
複数の乳酸菌